

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	失語症Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 1 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学 期	後期	教室名	
担 当 教 員	圓越 広嗣				
実務経験と その関連資格	言語聴覚士として回復期病院(デイケア・訪問リハビリ併設)、急性期病院で脳血管疾患リハを中心に9年勤務。その後、慢性期病院・外来リハで失語症、高次脳機能障害、運動障害性構音障害、摂食嚥下障害、認知症、吃音のリハビリに10年間従事。現在は急性期・回復期病院で勤務。失語症の臨床は2003年から携わっており、SLTAは300例以上実施している。日本言語聴覚士協会、日本高次脳機能障害学会会員。				

《授業科目における学習内容》

失語症に対する実際の臨床(評価方法)について学びます。失語症の評価・診断を行うために必要な検査法の特徴を理解し、その手続き、教示方法、結果の処理、解釈に関する知識を深めます。

《成績評価の方法と基準》

この講義では①定期テスト、②課題、③検査まとめチェック、をもって成績評価をします。  
内訳は①定期テスト90%、②課題5%、③検査まとめチェック5%です。  
検査まとめチェックは、検査用紙とマニュアルが整理できているかを確認します。迅速に取り出せるよう各自工夫して下さい。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

指定教科書:「標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版」(医学書院)  
講義では検査のマニュアルを中心に進めます。教科書には検査の概要が記載してありますので、予習として授業前に一読すると授業を理解するのに役立つでしょう

《授業外における学習方法》

マニュアル熟読、検査練習

《履修に当たっての留意点》

多量の資料が配布されます。適宜整理して下さい。検査の特徴を把握したうえで検査を正確な手続きで実施し、検査結果をまとめることができるようになることが目標です。ただし授業を一度受講したのみで上記が可能になるのは到底困難です。自主的に検査練習を行って下さい。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	標準失語症検査(SLTA)の目的・方法について説明できる	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	標準失語症検査(SLTA)の目的・方法		
第2回	授業を通じての到達目標	手順に沿って、正確に検査を実施し、評価できる。	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	標準失語症検査(SLTA)の演習		
第3回	授業を通じての到達目標	手順に沿って、正確に検査を実施し、評価できる。	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	標準失語症検査(SLTA)の演習		
第4回	授業を通じての到達目標	手順に沿って、正確に検査を実施し、評価できる。	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	標準失語症検査(SLTA)の演習		
第5回	授業を通じての到達目標	模擬患者に対して、適切に検査を実施し、評価できる。	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	標準失語症検査(SLTA)の実技演習		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	模擬患者に対して、適切に検査を実施し、評価できる。	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	標準失語症検査(SLTA)の実技演習 ※SLTA評価用紙提出		
第7回	授業を通じての到達目標	失語症検査の掘り下げ検査の目的・方法について説明できる	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	標準失語症検査補助テスト(SLTA-ST)、WAB失語症検査、 老研版 失語症鑑別診断検査(D.D.2000)		
第8回	授業を通じての到達目標	失語症検査の掘り下げ検査の目的・方法について説明できる	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	Token Test、SALA失語症検査、失語症語彙検査(TLPA)		
第9回	授業を通じての到達目標	失語症検査の掘り下げ検査の目的・方法について説明できる	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	重度失語症検査、失語症構文検査(STA)、 実用コミュニケーション検査(CADL)		
第10回	授業を通じての到達目標	認知機能検査・知能検査の目的・方法について説明できる	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)、MMSE-J、 Kohs立方体組み合わせテスト、 レーヴン色彩マトリックス検査(RCPM)、 ウエクスラー知能検査(WAIS-III、WAIS-IV)		
第11回	授業を通じての到達目標	失行・失認検査の目的・方法について説明できる	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	標準高次動作性検査(SPTA)、標準高次視知覚検査(VPTA)		
第12回	授業を通じての到達目標	半側空間無視、注意機能検査の目的・方法について説明できる	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	Trail Making Test (TMT-J)、BIT行動性無視検査、 標準注意検査法(CAT)、標準意欲評価法(CAS)		
第13回	授業を通じての到達目標	記憶検査の目的・方法について説明できる	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	標準言語性対連合学習検査(S-PA)、 Benton視覚記憶検査、レイの複雑図形検査(ROCFT)、 ウエクスラー記憶検査(WMS-R)、 リバーミード行動記憶検査(RBMT)		
第14回	授業を通じての到達目標	前頭葉機能検査の目的・方法について説明できる	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	前頭葉機能検査(FAB)、かな拾いテスト、Stroop test、 ウィスコンシンカードソーティングテスト(WCST)、 遂行機能障害症候群の行動評価(BADS)		
第15回	授業を通じての到達目標	評価の一連の流れが説明できる	配布資料	(予習)マニュアルを通読しておく
	各コマにおける授業予定	この講義で取り上げた各検査の目的と特徴の解説 認知関連行動アセスメント(CBA) ※検査まとめチェック		